



T  
W  
A  
N  
G

フエンダーの洗礼を受けずに、  
プロになつた男はない。  
君の父も、祖父も、  
フエンダーのオーナーだった。  
40歳を迎えたバタースカッチの  
テレキャスターが、  
何よりも雄弁に物語つている。

## CURRENT

レオ・フエンダーの卓越した造形感覚から誕生したテレキャスター、ストラトキャスター、Pベース、Jベースなどを野趣に富んだ表情を持つギアへと展開させたCBSヴァージョン。全てのラインアップが微妙に変化するコンテンポラリー・アーティストの感覚にフィットするよう調整されている。

## BOXER

フエンダーには、アーティストのリズムやテイストを自由に受け入れてしまう力がある。例えば演奏性という領域で少しの妥協も許さず、最新のメカニズムを導入し時代に応えたチューニングを施す。フエンダーの美的感覚を託し、成熟したサウンドを創造するBOXER & PERFORMERだ。

## COLLECTORS

あるものはヴィンテージであり、あるものはカレントに入るが、ひと味もふた味も違う隠されたテイストを持つ3シリーズ。アーティストの特異なチューニングに敬意を表した PLAYERS、稀少価値のしみこんだウッドマテリアルを限定・少量生産した EXTRAD、誰もが使ってるギターは嫌だ、という自信家の腕に抱かれる LIMITED EDITION がそれだ。

## VINTAGE

テレキャスター、ストラトキャスターなどたおやかな永遠の曲線美を魅せるフェンダーフォルム。使いこむほどに、えも言わぬ風格がにじみ出る50'S、60'Sのゴールデンエイジ達、ブリCBSヴァージョン。ギタリスト、ベーシストの腕前を無言のうちに物語る至上のアイテムです。

# VINTAGE

1954/1957/1962



Jeff Beck

## '54 STRATOCASTER PROFILE

ストラトキャスターの製作は50年代初期に計画され、プロダクションラインに加わったのは54年後半である。その特徴をいくつか挙げると、ボディマテリアルにホワイトアッシュを使用しておりイエローとブラックの2トーンサンバースト仕上げであること。ほとんどがハンドクラフトであるため、ヘッドからネックにかけて、またボディのセンターなどがとても滑らかに仕上げられていること。またテレキャスターに使用している丸型のストリングガイドを採用している。などなど57年ストラトキャスターの3角ネックとは味わいの異なるネックフィーリングとアッシュボディが醸したサウンドキャラクターはギタリスト垂涎のアイテムとしてトップランクに位置しています。ST54-115は手作業によるネック&ボディの製作をはじめ随所に54年スペックを採用しながら、アルダーボディやオプショナルカラーなど55年、56年の特徴まで加えたブリ57ストラトキャスターです。

## '57 STRATOCASTER PROFILE

「枯れた音」という至高の響きをギタリストから頂戴したメイプルネックのストラトキャスター。シンプルな機能美、ひとつひとつのフォルムが『たおやかな曲線美を魅せるハードウェア、熟成したアルダーボディをはじめとする永遠のウッドマテリアル。幅のあるトーンレンジを獲得し特徴的なトーンを放つ3ピックアップコンビネーション。使いこむほどに、えも言われぬ風格がメイプルネックからじみ漂う経年変化の妙。57年ストラトキャスターの粋を極め、丹念に仕上げた傑作です。

## '62 STRATOCASTER PROFILE

ゴールデンエイジを代表するローズウッドフレットボードのストラトキャスター62年ヴァージョン。スムーズでしなやか。メイプルのそれとは感触の異なるローズウッドの弾き心地。Uシェイプのネックなど木のテクスチャーが微妙なフィンガーリングニュアンスを生みだします。上質でテイスティ。濃密でストロングな音色。スイッチングマジックによるクオータートーンも千变万化のストラトキャスターに隠された小技のひとつ。ギタリストの腕前を無言のうちに物語る至上のアイテムです。





ST'57-115  
¥115,000  
color=T



ST'57-85  
¥85,000  
color=BLK



ST'57-70  
¥70,000  
color=left/CAR  
right/VWH



ST'57-55  
¥55,000  
color=left/BLK  
right/T



# STRATOCASTER



ST'62-115  
¥115,000  
color=3TS



ST'62-85  
¥85,000  
color=VWH



ST'62-70  
¥70,000  
color=FRD



ST'62-55  
¥55,000  
color=left/YWH  
right/RYL



# CURRENT

1972



Yngwie Malmsteen



## '72 STRATOCASTER PROFILE

レオ・フェンダー、フレディ・タバレスらの手により生まれたストラトキャスターを野趣に富んだ表情を持つギアへと変えたCBSヴァージョン。ヘッドstockのブレットトラスロッドやマイクロティルトアジャストの採用だけでなく、ブリッジ/トレモロブロックの一体化などマテリアルと機能をリファイン。音質もよりトレーピーに。ワインテージのテイストとコンテンポラリーな機能がバランス良く調和し、音の魔術師の一語につきるストラトキャスターへと変貌した。

## CST & SST SQUIER by FENDER

スクワイアは音色、迫力、プロポーションのすべてにフェンダーアイズムを継承したコストパフォーマンス機。カレントスタイルを象徴するラージサイズのヘッドstockに光るブレットトラスロッド、アメリカンフィーリングを代表する洗練された曲線美のCST。クローシャンスタイルのスマールヘッド、フェンダー譲りのピピッドなディテールによる華麗なワインテージフォルム、そして味わい深いトーンニュアンス。汎えたギターワークを求めるテイスト派に贈るSST。

<p><b>ST'72-115</b> ¥115,000 color=NAT(M)</p>	<p><b>ST'72-70</b> ¥70,000</p>	<p><b>ST'72-55</b> ¥55,000 color=left/YWH(M) right/BLK(M)</p>	<p><b>ST-362</b> ¥39,800 color=BLK</p>	<p><b>CST 30</b> ¥39,800 color=OWH(R)</p>
---	------------------------------------	---	--	---

# LEFT HAND



**ST'67-85L**  
¥97,000  
color=VWH



**ST'62-55L**  
¥66,000  
color=3TS



**TL'52-95L**  
¥107,000  
color=BSB



**TC'72-60L**  
¥72,000  
color=BLK



**TL'72-55L**  
¥66,000  
color=BLK



**ST'57-55L**  
¥66,000  
color=T



**ST'72-55L**  
¥66,000  
color=3TS



**PB'57-55L**  
¥66,000  
color=VWH



**PB'62-55L**  
¥66,000  
color=3TS



**JB'62-60L**  
¥72,000  
color=VWH





**TL'52-95**  
¥95,000  
color=BSB



**TL'52-75**  
¥75,000  
color=BLD



**TL'62-70**  
¥70,000  
color=VWH



**TL'62B-70**  
¥70,000  
color=CAR



**TL'69-115**  
¥115,000  
color>All Rose NAT

## TELECASTER



**TL'72-55**  
¥55,000  
color=left/BLK(R)  
right/NAT(M)

### VINTAGE TELECASTER

テレキャスターの引力。それは凝らしたメカニズムや斬新なデザインではなく、純朴でいて品のある、素材と正統なラインの結晶、それです。50年代から60年代にかけてのヴィンテージと呼ぶアーリCBSのラインアップを見ると、時代を超えて実にシックで美しく、ゆったりとしたテレキャスター感覚に気げ。演奏するための不必要な装飾がない、ソリッドギターの原点に立つアイテムのTL'52-75を筆頭にローズウッドフレットボードの62年モデルTL'62-70。オーセンティックだが洒落むをきかせボディエッジにバインディングのあるTL'62B-70もノーブルでシックだ。洒落むなら年輪の深い味とレトロ感覚に満ちたロンドンサイケデリックの軽さがマッチしたペイズリー仕様のTL'69-75PRD、全身にローズウッドをまとうたエンダー流ゴージャスを主張するオールローズテレキャスターTL'69-115が美しく輝いている。

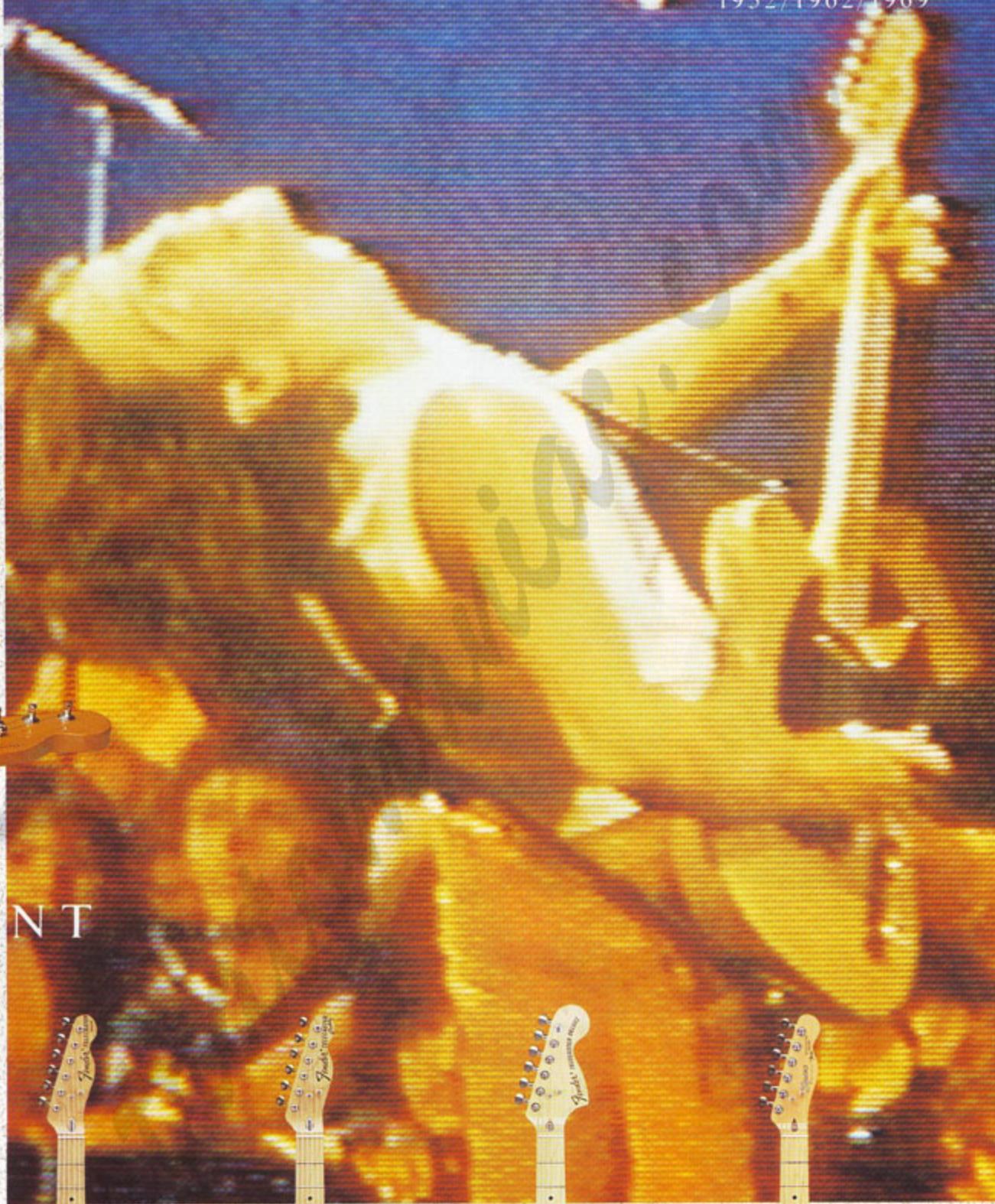
### CURRENT TELECASTER

テレキャスターに対する造形感覚や色彩感覚は時代とともに変化し、70年代に入るとさまざまなアイテムが登場した。特徴的なフォルムはそのまま継承し、意欲的にラインアップを展開したこれらのアイテムをカレントモデルという名称でカテゴリーにおさめている。オーソドックスなテレキャスターの70年ヴァージョンにメイプルとローズのふたつのネック仕様を用意したTL'72-55が。またセミアコースティックのトーンニュアンスを2シングルPUで試みたThinline TN'70-75と2ハムバッキング仕様6ウェイブリッジのTN'72-75、シングルとハムバッキングを抱合せたCustom TC'72-60、さらには2ハムバッキングでストラトキャスター・ヘッドのDeluxe TD'75-65など微妙に変化しながらテレキャスターを充実させています。シンプルに見えてひと癖ありそうな強い個性。自分流にアレンジして、ものにしてほしいのである。



VINTAGE  
1952/1962/1969

TL'69-98  
¥98,000  
color=All Rose  
NAT



CURRENT  
1970/1972/1975

TN'70-75  
¥75,000  
color=mahogany



TN'72-75  
¥75,000  
color=NAT



TC'72-60  
¥60,000  
color=BLK



TD'75-65  
¥65,000  
color=NAT



CTL 30  
¥39,800  
color=BLK



# PRECISION BASS



PB'57-95  
¥95,000  
color=T



PB'57-75  
¥75,000  
color=CAR



## '54 PRECISION BASS

すべてのエレクトリックベースに通ずる基本はこの一本に始まる。無駄がなく、気どったところもない端正なフォルム。テレキャスターに似たヘッドや太めのネック、特徴的なピックガードなどにこだわったエレガансさは驚くほどに個性的だ。

## '57 PRECISION BASS

エレクトリックベースのさきがけとしてエポックを築き、ロックンロールを創してきた57年プレシジョン。アルダーボディにはどこされたラッカーリ仕上げの2トーンサンバースト、アルミ焼付ピックガードにマウントされたスプリットピックアップ(U.S.A.)が特徴のPB57-95をはじめとするメ

イブルネック仕様のラインアップ。力強いサウンドとトラディショナルな雰囲気が見事にとけあい、57年プレシジョンベースをいっそう際立てる。

## '62 PRECISION BASS

コシのある重低音、ローズウッドフレットボードの滑らかなフィンガーリングタッチでのトップベーシストに愛されているエレクトリックベース・キング。幅広い音楽性と卓越したライブ感覚。リアリティ溢れるディテール、オリジナルスクリプトを使ったヘッドティーカー、胸に響く。



PB'57-55  
¥55,000  
color=BLK



PB'62-98  
¥98,000  
color=3TS



PB'62-80  
¥80,000  
color=VWH



PB'62-55  
¥55,000  
color=BLK



OPB'54-75  
¥75,000  
color=BLD





**JB'75-80**  
¥80,000  
color = left/NAT(M)  
right/3TS(R)



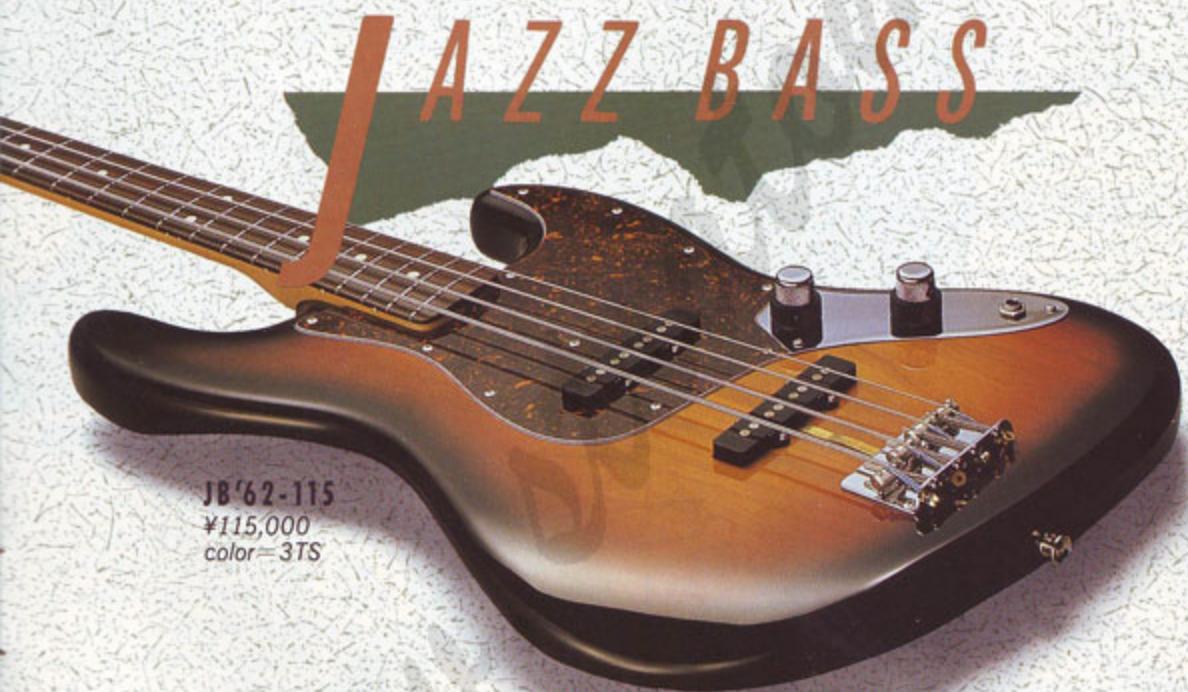
**JB'62-80**  
¥80,000  
color = VWH



**JB'62-60**  
¥60,000  
color = 3TS



**JB'62-60FL**  
¥66,000  
color = 3TS



**JB'62-115**  
¥115,000  
color = 3TS



**JB355**  
¥45,000  
color = BLK

## '62 JAZZ BASS '75 JAZZ BASS

印象的なオフセットのコントートボディやスリムなナローネック、フラット貼りのローズフィンガーボード、トーンレンジを広げる8ポールビースのピックアップなど各エレメントを総合するとギタープレイに近いニュアンスで作られている。1959年に発売されたレアな2連の2ボリューム2トーンコントロールヴァージョンのレプリカJB62-115、2ボリューム1トーンのJB62-80、60、フェンダー・ジャバーンの手によりプロデュースされたフレットレスヴァージョンのJB62-60FLなど気品が漂う充実したラインアップです。

自然と人間とが作りだす素材のテクスチャー。木目の美しさを語る時、いっぽうにメイプルウッドがあるならば、もういっぽうにあるのがホワイトアッシュです。この木目の美しいホワイトアッシュを選びぬき、ボディに採用した70'Sフェンダー・ジャズベースのライシューJB75-80。そのボテンシャルとユーテリティはJ.ベースだけに与えられたものです。キャリアを重ねたベーシストに一番、似合う。

# INSIDE



ST67-85

## Rosewood Fingerboard

ローズウッドフィンガーボードと言うと62年ストラトキャスターを連想しかねない。プロトタイプとして50年代後半のジャズマスターでの仕様は試作されていた。初期のものはメイプルネックに対しフラットに貼られていたが、62年からネックの曲げを抑えるために、薄いローズウッドをフレット

トボード表面のアールに合せて接着面にもアールを付ける、という手の込んだ貼り方を採用した。ところで、メイプルネックの方だけ、ローズウッドフィンガーボードのようにメイプルをネックに貼ったメイプルフレットボード仕様がある。こちらの方は67年のことだ。ジミヘンドリックスのストラトでお馴染みのST67-85がそれである。

## Tremolo Unit

テレキャスターがエレクトリックギターの基本であるように、フェンダーシンクロナイズド・トレモロはすべてのトレモロの基本形である。そしてこのトレモロは永遠にブランニューなのだ。構造について解析してみても、ブリック・CBSのタイプではブリッジとブロック(イナーシャブロック)の2つのパーツに特筆すべき数々の機能を握らせてている。例えば、質量のあるイナーシャブロックをテールピースとして利用しデッドポイントを解消、さらにそれをカウンターテンション用のスプリングフックとして使い、ブリッジはアジャスタブルで、おまけにこうした機能を限られたスペースに収めている。カウンターテンションは5本のスプリングを何本にするかで調節できる。ギタリストは好みの本数をセットすれば、ハードにもソフトにもタッチを変えられるわけだ。これによりスイングアウェイ式のアームでダウンのみならずアップが可能となった。70年以降

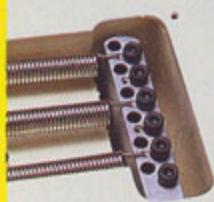
ではブリッジプレートとイナーシャブロックを亜鉛系の合金鋳造によって一体化し、同じくブリッジサドルもキャステリング(鋳造)に変わったところで、ジャズマスターやジャガーに装着されているフローティング・トレモロだが、シンクロナイズド・トレモロの優れどさに對しこちらはマイルドな効きをセールスポイントとしたユニークだ。ブリッジとテールピースはセパレートになっていて、カウンターテンションは一本のヘヴィーデューティな圧縮スプリングが作りだす。トレモロのテンションはテンションスクリューで簡単に調節できる。この当時にトレモロをロックするTREM-LOK機構を開発装備している点にも注目したい。フェンダーのトレモロはすべてのトレモロの基本形であるという事実。これだけでも十分理解していただけるはずだ。



VINTAGE Tremolo

## END ROX

ストラトキャスターに装着されているシンクロナイズド・トレモロユニットの効果を最大限に發揮させるスマートなロックシステム。ブリッジ側からではなく、糸巻部から弦を通し、トレモロブロック部で弦をロックするだけ。ストラトキャスターを改造することなく装着できる。



END ROX

## SYSTEM I Tremolo

### Blade Shooter Vibrato

ブリッジ部で弦、及びブリッジサドルをブリッジプレートに完全ロックし、アーミング時のチューニングの狂いを放過したニューメカニズムのトレモロユニット。ブリッジサドルはロストワックス方式を採用した高精度、超硬質でロックした時の弦の食込みを解消。一本一本を確実に音質劣化させることなくホールドする。また、ブリッジプレートは切れ味のいいナイフエッジの2点

支持方式でストレスのないアーミングドライブを保証。

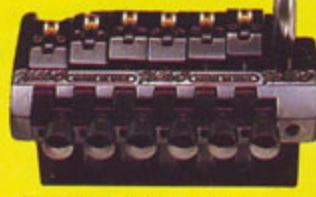


SYSTEM I Tremolo

**BOXER**  
series

## KAHLER Fulcrum Tremolo

スクエアエッジのニューポクサーフFシリーズに装着されているケーラー・フルクラムトレモロ。その優れたトレモロ機構はフェンダーと肩を並べ、高い定評を得ている。バランスを極め見事に成熟をとげたFシリーズ。際立つブラック仕様が、ポクサーマインドをさらに加速する。



KAHLER Fulcrum Tremolo

## TBX Control



TBX Control

中点クリック付きトーンコントロール。従来のバッシブタイプ同様ファット&ウォームなHi-Cutトーンコントロール(左方向に回す)に加え、高域のレゾナンツピークを上げ、突き抜けるようなフェンダートーンを獲得する(右方向に回す)。ディストーションをベースにしたサウンド時のハイタッキーなハーモニクスサウンドにゴージャスな質感を披露。

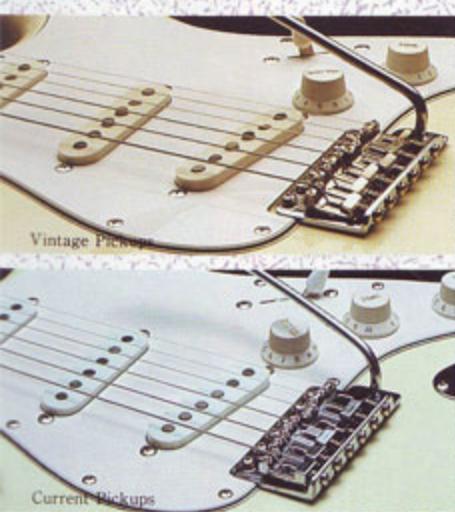
## Medium Scale

ギタリスト、ベーシストの左手にショックを与えるフェンダー・ジャパンのオリジナル・カスタマイジングがこの314、406のミディアム・スケールモデルだ。なにかにつけてスケールが違う。心憎いほどフィットしてしまう優れた演奏性が、アーティストの創造力を触発するとしても、無理ない。ポクサーマインドだけでなく、ヴィンテージシリーズベースにも取り入れられている。



Medium Scale / Regular Scale

## VINTAGE &amp; CURRENT



## Pickups Stratocaster

ヴィンテージとカレントとの違いをプロポーションで判断するのは適切ではない。それぞれのパーツをじっくり見していくと、ブリCBSとCBSの間にはウッドマテリアルやハードウェアもそうだが、ピックアップに微妙な変化があったことに気付く。ブリCBSヴィンテージのポールピースが各弦のゲージに合せて、高さを変えてセッティングしてある(移動可能)のに対し、70年代カレントはフラットである。使用コイルの番手にそれほどの違いはないが、インダクタンスや直流抵抗に差がある。その理由はライトゲージが登場し、それまでのストリングアレンジが崩れ、1~3弦までがブレインになってポールピースへのゲインがフラットになったからだ。もちろん、ブリCBSのピックアップの方がスイートなトーンであることは言うまでもない。

## Pickups Telecaster

テレキャスターのピックアップを数値で見ると、2つのピックアップで特徴的なサウンドを表現するために、個性の異なるキャラクターを前後に置いた。そう考えるのが自然だ。リズム側はストラトキャスターに比べ番手の多い(細い)コイルを使い、たっぷり巻いてある。リード側では番手を下げる約8,000ターン巻き、ピックアップ下にスチール板を貼って高域のゲインをかけている。今ではあたりまえになっているが、ワックスによるポッティングがハウリングを抑えている。こうした処理をきっちり施した結果、2ピックアップらしからぬ表情を持つ伝説的なフェンダートーンは生れた。TCやTNに採用しているハムバッキングピックアップについても、当時の同タイプの物と比較してポールピースは大きく、独特なレイアウトでデッドスポットを解消しているなど注目する部分が多い。



## SYSTEM III Tremolo

SYSTEM IIIは3つのエレメントから成り立っている。その1はフローティングの状態を自由自在に可変できる機構だ。ユニットは高剛性に優れた2本のスプリングによって引っぱられている。そしてスプリングはエンドピン下からフロントPU付近にまで内蔵されているロッド棒にその一端が固定されていて、ロッド棒上を移動できる。エンドピン側のロッド棒はアレンナットになっていて、レンチで回転させることで、スプリングを固定したプレートが滑るように移動していくわけだ。フロントPU側に移動するとスプリングは引っぱられ、ユニットはボディに接近する。リア側に移動すれば、その逆になる。曲想や弦のテンションに合わせて角度を深く浅くもできる。ところで、アレンナットを回転させるアレンレンチは

トレモロアームに隠されていて、アームの先端とエンドがそれぞれレンチになっている仕掛けだ。アーム自体がツールになるというわけ。



その2はトレモロアームとプレイヤビリティだ。当然ブリッジアッセンブリーを形成している各エレメントは独自性にあふれ、例えば、鋭敏な支持部。

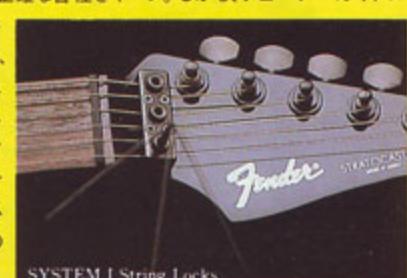
滑らかなアーミングタッチに貢献するローラーブリッジサドル、ファインチューノブなどは極めて高次にデザインされソリッド感をかもし出している。で、このトレモロアームだが、ユニットの先端で神経質にとがっているアームもまったく使用しないギタリストにとっては無用の長物である。そこで、このアームをロックする方法を考えた。アームを時計方向に4分の1回転させるとユニット全体がロックされ、ストップテールピースと同じ機構に変身するのだ。何かの拍子にアームに触れて泣きを見ることなどない。

その3はヘッド部分のストリングロック機構だが、詳しくはSTRING LOCKSを読んでほしい。

フェンダーのメカニズム。それは、エレクトリックギターのメカニズムのことを探している。そこで、その魅力的なディテールの一部を紹介しよう。すぐに気づくのは、これらのメカニズムが、現在、すべてのギターの標準になっている。あるいは標準装備されている。という事実だ。じっくり読んで、フェンダーの本質に触れていただきたい。

## SYSTEM I String Locks

ボクサーFシリーズをはじめ、SYSTEM I Tremoloを装備した機種に装着されているストリングロック機構。弦のたわみを完全シャットアウトした設計によりチューニングの狂いを解消、正確な音程をキープ。しかも、チューナーガイドにより理想的なテンションからロングサステインが響く。また、ロックしたまま手でファインチューニングやオクターブチューニングができるファインチューナーノブ、ストリングリタイナーとしても使える応用力などストロングなギタリストにはたのもしい機構だ。



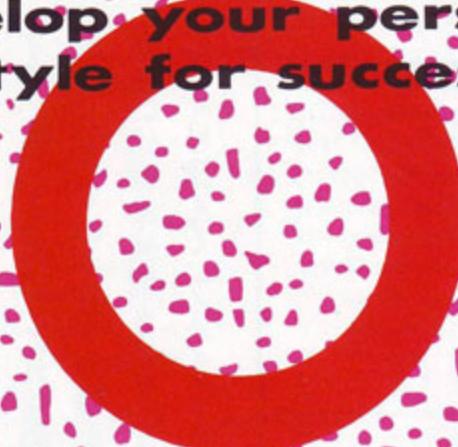
## Cam Arm Nut Lock

SYSTEM IIIで触れたストリングロック機構。カムアームナットロックと呼ぶこの機構だが、弦はメタルナットの上を通過し、このストリングロックの間を通して弦巻にゆく。ストリングロックは1弦側にあるレバーでワンタッチロックする。ワンタッチロックによってストリングロックが締まり、弦をベンドしてもチューニングが狂わないのだ。また、ストリングロックの6弦側には弦の太さに合わせてストリングガイドの間隔を調整するネジがあり、ギタリストのゲージに合わせて、ロックングすることができる。全ギタリスト対応型のロックシステムだ。



# BOXER

Develop your personal  
style for success.



ST-755  
¥180,000  
color=SWH



ST-756  
¥130,000  
color=BLK



SF-456  
¥70,000  
color=STR



SF-455  
¥70,000  
color=BLK



ST-535  
¥60,000  
color=BLK



ST-555  
¥60,000  
color=SWH

基本は科学が支えているけど、

人の顔のように、

個性豊かな表情で、応答する。  
活動する筋肉のみが発達したやつ。

BOXER、一等新しいトレンド。

ストラトキャスターほどカスタマイジングの似合うギターはない。それは構成する各エレメントがとてつもなく高い造形感覚を持ち、ごく自然にギタリストの要望を許してしまう。各人のテイストやリズムを受け入れる力と接近せすにはいられないムードをストラトキャスターは備えているのだ。そんなアーティストの憧れに確かに応え、ストラトキャスターの能力を再確認させるカスタムドリーミング。フェンダーの手にゆだね、ハードなメカニズムに独自のテクノロジイを揮いながら時代に応えたチューニングを施す。フェンダーの美的感覚を託し極限のパフォーマンスを追求したラインアップが BOXER & PERFORMER シリーズです。ノーマルのストラトキャスターの質感やデザインは十分に生かしながら、男性

的フォルムのハードウェアを多用してコントラストを明確にしている。ハードウェアに設計が集中しているのも、言いかえるならばストラトキャスターのプロポーションが手の付けようがないほど完成されていることを物語っている。そうした意味で搭載されているハードウェアをいま一度眺めてみると、システムⅢにしろ新鋭 F シリーズに採用されたケーラー・ファルクラムにしろストラトキャスターの性格に見事にフィットしている。さらには創造力を喚起させる TBX コントロール、戦闘力のあるピックアップ群、バターンにおさまらない多彩なバリエーションなどお仕着せのユニフォームを嫌うギタリストのための宝庫だ。BOXER & PERFORMER。まさにハイレベルな愛すべき素材の出現である。



SF-451  
¥60,000  
color=SWH(M)



ST-556  
¥65,000  
color=TRD



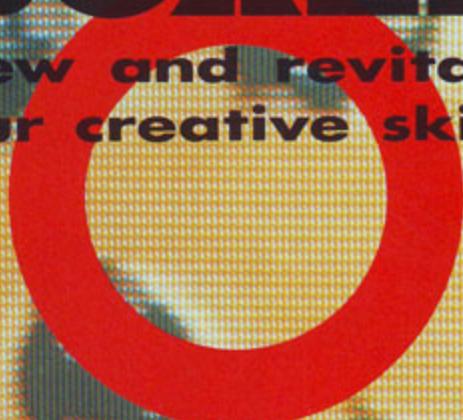
"Medium Scale"  
ST314-60  
¥60,000  
color=BLK(R)



"Medium Scale"  
ST314-55  
¥55,000  
color=left/MP(R)  
right/VWH(R)

# BOXER

Renew and revitalize  
your creative skills.



TLG'80-60

¥60,000

color=BLK



TL-556

¥65,000

color=BLK



ここにおいて、ここは宝庫。

たいがいの刺激には、薄目も開けない男達へ。

PF-555  
¥80,000  
color=FWH



"Medium Scale"  
TL314-55  
¥55,000  
color=BLK(M)

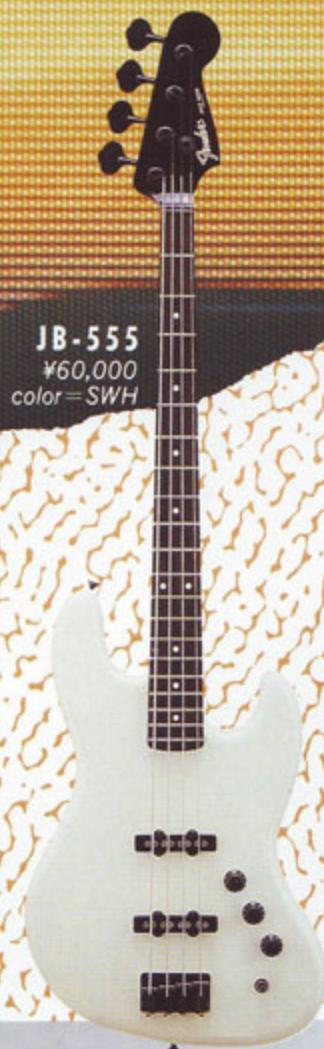


TL-555  
¥60,000  
color=SWH



スケールを短くとったミディアムスケール・モデルとかゲージのバランスを変えたストリングアレンジを施すだけで、弾き心地は変わる。そんなブレイングニュアンスを全身に秘めた BOXER & PERFORMER。創造力をかきたてる3ピックアップのテレキャスターTL556、ミディアムスケールのTL314-55を引合いに出すまでもなく、このシリーズはとぐべつの、とくべつな、フェンダー達。伝統的なヴィンテージシリーズとはコンセプトも味わい方も違うトレンドリーなギター&ベースだ。しかし、ゆっくりと見つめているとデザイン的にはフェンダーを随所に継承していることに気がつく。それらは常に時代を引っぱって革新的なエレメントなのだ。とりわけ、314ミリと406ミリのミディアムスケールネックはスピーディな

演奏性を身上とする諸兄の興味をそそる仕様だと思う。また、自由奔放に組合せたピックアップ・バリエーションに音作りの妙味を発見し、創造力をかきたてるアーティストも少なくないだろう。しかしながら、これらの視覚的なインパクトより、実はプラグインした時の未体験のたかぶりこそ、フェンダーが秘かに求めたテーマなのだ。ライブ派といわれるアーティストの使命がスピード感のあるプレイ、多彩なサウンドメイクである以上、BOXER & PERFORMER が演奏性という領域で少しの妥協も許さず、最新のメカニズムを導入して成熟したサウンドを創造していることはいうまでもない。しかし、ギターはマシンではあるけれど、機械ではない。刺激的でコンテンポラリーなスペックやフューチャーは、あくまでも結果なのだ。



**JB-555**  
¥60,000  
color = SWH



**PJ-535**  
¥60,000  
color = BLK



**PJ-555**  
¥60,000  
color = TRD



**PB-555**  
¥60,000  
color = BLK



**FB-555**  
¥80,000  
color = BLK



**PB-331**  
¥45,000  
color = BST



"Medium Scale"  
**JB406-60**  
¥60,000  
color = VWH



# Collectors Series

# PLAYERS

Jimi Hendrix

あたりまえのことだが、フェンダー・ジャパンのラインアップは、はっきりしたテーマを背負って構成されている。それらは、けっして音楽ジャンルの多様さをカバーするためだけのラインではない。しかし、ひとつだけアーティスト自身が「フェンダー」に託し表現したモデルをカテゴリーにおさめたシリーズがある。彼らの特異な個性、チューニング、遊び心に敬意を表しラインにしたプレイヤーズ・モデルだ。フェンダーに手を入れていくことによって愛するものがより身近になることを彼らは知っている。しかし、すべてのフェンダーがそれに応えてくれるとは限らない。彼らの思い入れるものに対して素直に応えたギターは5モデル。フェンダーとよく付き合うために、大がかりなカスタマイズは避けているが、ニヤッとするつておきのアイデアが施されている。自分自身の気にいったリズムで個性に合わせたこだわりがなされているのだ。ファンを自認する諸兄が弾くならば、えもいえぬ思いが駆けめぐることだろう。

ST'67-85  
¥85,000  
color=VWH



TL'52-70SPL  
¥70,000  
color=BLD



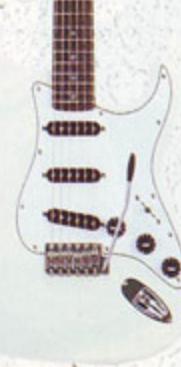
TL'67-70SPL  
¥70,000  
color=3TS



ST'72-75  
¥75,000  
color=OWH



ST'72-65  
¥65,000  
color=OWH

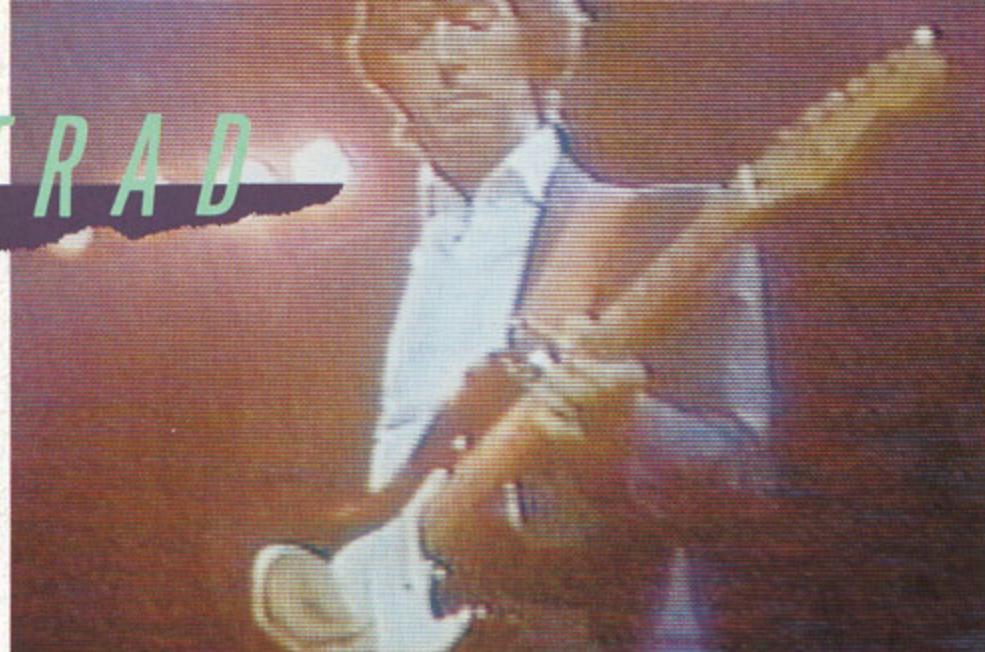


Keith Richards



Yngwie Malmsteen

# EXTRAD



古そうに見える、ギタリストのグッドテイストを物語る。そういう理由で手に入れるのも間違いでないけれど、永く付き合っていけるから、生涯の友として選ぶ。ヴィンテージの魅力はそこだと思う。ウッドマテリアルにオリジナルヴィンテージを超える稀少価値のしみこんだ木素材を贅沢に使用し、U.S.A.オリジナルピックアップを装着したエクストラ・トラディショナル。その名もエクストラッド。

言いようのない気品を漂わせる52年のテレキャスターと54年、57年、62年のストラトキャスター。そこには古めかしさは存在しない。ヴィンテージレプリカと呼ぶのも、正確ではない。装飾をこらしたモデルでもない。限定・少量生産という思いきったプロダクションシステムから誕生した、もっとぜいたくなフェンダークラフツマンシップなのだ。

ミュージックショップのウインドーに鎮座する高価なヴィンテージフェンダーとエクストラッド達を比較することは、できれば避けてほしい。表情だけでこのモデルの本当の魅力を知ることなどできないであろうから。



Collectors  
Series



ST XII  
¥120,000  
color=3TS

# LIMITED EDITION



10人のギタリストのうち、7人ぐらいはこのモデルの前を通りすぎてしまう。あの3人はこのギターの隠されたテイストを手に入れる。フェンダーを完全に使いこなせるギタリストが注目するリミテッド・フェンダー。誰もが使えるギターは嫌だ、という自信家の腕に抱かれるリミテッド・アイテムだ。

時代の空気に反応し自由自在に響くワイヤリングマジック。60'Sシックを代表するストリームなフォルム。フラットワインディングによるラージサイズのシングルPU。スピカスの効いたサウンドに個性的なエフェクトをアーミングするフローティングヴィブラートユニット。アーバンエレクトリックギターとしての万能性が全身に輝くJazz-master JM66-70と磁気回路を強化した2シングルPU、22フレット仕様、グレードアップ機60'SブーマーJaguar JG66-75。そしてフェンダーの洒落心がテレキャスターの味をさらに深めた1PUのEsquire TES54-70、ホワイトセルバインディングのトリミングかはぶしい61年ヴァージョンTES61-70。特徴的なワイヤリングはフロント

ポジションでロードライブを強張るディープサウンド。センターでトーンコントロールを効かせたストレートなリズムワーク。リアポジションはさらに歯切れよいサウンドを提供する。シンプルという名の機能美が漂うノーブルなモデル。さらにペイズリー仕様のストラトキャスターST72-125PRD、テレキャスターTL69-75PRD、ブルーフラワーのテレキャスターTL69-70BFLなどサイケデリック&フラワーモーブメントエイジを代表モデルとコンパクトボディで多彩なサウンドメイクを楽しめるMustang MG69-60が加わりました。また美しいコードワークとボイシングを提供するストラトキャスター史上初の12弦モデルST XIIが登場しました。



**ST'72-125PRD**  
¥125,000  
color = PRD



**TL'69-75**  
¥75,000  
color = PRD



**MG'69-60**  
¥60,000  
color = SBL



Don Wilson



**TL'69-75BFL**  
¥75,000  
color = BFL



**TES'54-70**  
¥70,000  
color = BLD



**TES'61-70**  
¥70,000  
color = T



**JM'66-70**  
¥70,000  
color = 3TS



**JG'66-75**  
¥75,000  
color = VWH

# INSIDE OF FENDER

ここに掲げたショート・ストーリーはフェンダーのサービス精神を物語っている。レフトハンドギターしかし、ストラップやケースなどのアクセサリーもフェンダーをこよなく愛するオーナーのために考案された。それらのいずれもが、フェンダーの冠を付けるにふさわしい。



ヴィンテージフェンダーを愛する男達が、愛器を抱えるため道具となると、ストラップである。椅子にこしかけて弾くなどもってのほか。花柄や、鉢を打ち付けたものものしいタイプは、いさか役者不足。肩ばかり目立つて、ちぐはぐである。オーセンティックなヴィンテージにさりげなく手を添えるストラップとなると、細みでシンプル、カウスキンを使ったフェンダー純正のヴィンテージストラップにつきる。カナディアン・カウスキンの純朴な素材をいかし、粹なオリジナルバックルをあしらった50'S、60'Sのオーナーズストラップだ。使いこんでいくほど、肩に馴染んでくるのが嬉しい。



いい。カラーはブラックとタン。プライスはどちらも¥3,800とリーズナブルだ。ストラップもそうだが、フェンダリアンならばピックにも凝りたい。最近のライブなどを観察すると、まるでノベルティグッズのようにステージ上からビュンビュン客席に向かってピックを投げつけてアーティストが結構いる。個人的には、ヴェンチャーズのノーキー・エドワーズのような一枚のピックで全ステージをこなす人、

ピックの使い方を心地よい人が好きだが。

ところでピックの素材だけど、セルロイド、メタル、ベっこうと豊富だが、何といってもピックはカーボンに限る。フェンダー・ジャパンのカーボンピックはソリッドのカーボンから作った、いわゆるカーボン100%のピック。気を付けたいのは、カーボンピックと称するピックのほとんどがエッジ部分に他の素材を使って売ってる点だ。今のところ最高級の素材で、強度も高く、しなやかさと反発力を合わせ持つカーボンピックとなるとフェンダー・ジャパンの物がよろしい。カーボン100%で一枚¥200は自慢できる。用途に合わせたミディアムとエクストラヘヴィの2タイプがある。



## STRAP & PICKS

ハード&ゴージャスなストラップに対する反作用なのだろうか、ヴィンテージ・ストラップが欲しい。という人がかなりいる。それでは、と昔のまま作ったのがこのストラップ。とは言っても、そうカンタンに事は運んではくれなかった。当時と同じ素材を見つけるにしてもひと苦労。本皮に似せた合皮が全盛の今日、ピッグスキンとは言え皮は皮ですからね。使うほどに味が出ます。肩になじんできます。クリーナー等でのお手入れも忘れずに。

VINTAGE STRAP COLOR = BLACK/TAN/RED/WHITE ¥3,800

リフター・ブラッカモアのカスタマイシングで、その名を知ったギタリストも多いと思うが、フレットボードをえぐつて、あふれとホタテ貝(ホタルガイ)の表面のようになに波形にした仕様をスキヤローブ、フレットボード、またはスキヤローブ・ネックと呼んでいる。元来、クラシックギターなどに使われた仕様だが、早急に作るためにはもう削ぎた。弦をおさえるところよりも、触れるところ、ユニアンスで左手を滑らしていく。フェンダーではイングエイ・マルムステークの特注で5丁(2-6-5-7)のフレットボードのスキヤローブ(STRAP)。5(メイプルネックのスキヤローブ)に施している。

# Left Hand Models!

サウスポーの有無がチームの勝敗の鍵を握っている野球。同じく右投げだが左打ちにしてる掛布。コナーズのスマッシュ。ちょっと古いけど「私の彼は左きき」というタイトルのポップソング。とにかく左ききは特異であり、目立つ。ロックンロール界を見回せば、ポール・マッカートニーがいる。ジミ・ヘンドリックスもそうだ。サウスポーがいかにカッコ良いか、ギターをかついで鏡の前に立ちイマジネーションをきかせて一曲やってみると体験できる。みよう気分が高揚して、とてもよろしい。鏡の前に立つと右ききになる正真正銘、由緒正しいレフトハンドギタリストのレフトハンドフェンダー。テレキャスター、ストラトキャスター、プレシジョン・ベース、ジャズ・ベースの4タイプ、全10モデルを製作し応えています。価格はそれぞれレギュラー・モデルの20%アップ、例えばST57-55Lならば¥66,000(TL52-95LとST67-85Lを除く)。イングウェイ・マルムスティーンのように

意識的にレフトハンドを使うギタリストもいる。ライトハンドの遊び心にも見事にフィットするレフトハンド・フェンダー。(詳しくはレフトハンドのページをご覧ください。)

## HOT LINE

フェンダー・ジャパン商品に関する質問、アイデアやリクエストなどユーザーのみなさんのナマの声を受けとめるホットラインです。直通電話番号は03(254)3670、サービスの鈴木直行がお応えします。何かひらめいたり、わからないことがありますならご遠慮なくどうぞ。

## Pre-CBS

テレキャスターにしろ、ストラトキャスターもプレシジョンベースもジャズベースやジャズマスターもレオ・フェンダーという革命児の超ラディカルなアイデアから誕生した。1965年1月にCBS(コロムビア・ブロードキャスティング・システムズ)へ1300万ドルで売却するまでの約25年間、彼がプロデュースし発表された楽器をプリCBS(CBS以前の)フェンダーと呼び、コレクター達は売却後に発表されたアイテムと分けている。CBSヴァージョンの象徴としてはラージサイズのヘッドストック、大型のスクリプト体を使った金文字に黒のトリミングを施したデカール、そしてFの刻印が入ったネックジョイントブレードなどがあげられる。

モニターテレビがなくてはせっかくのビデオセグメントのテープでしかないように、ギターコードなくしてフェンダーを楽しむことは出来ない。ピック同様、各社各ブランド入り混じたものだ。でも、品質や音質で選ぶならフェンダーのプロコードをお勧めしたい。というのも、ノイズが極端に少なく、しかも丈夫。ライブに力を発揮する優れものなのだ。フェンダーラインならずとも、ぜひ一本揃えておきたいものだ。

- PRO CORD COLOR BLACK-RED-BLUE-YELLOW-GREEN  
• 60cm ¥600 • 3m ¥1,200 • 5m ¥1,500 • 7m ¥1,800 • 10m ¥2,200

- TWEED CASE FOR GUITAR ¥33,000
- HARD CASE FOR BASS ¥36,000
- HARD CASE FOR GUITAR ¥17,000
- HARD CASE FOR BASS ¥19,000
- SEMI HARD CASE FOR GUITAR ¥12,000
- SEMI HARD CASE FOR BASS ¥13,000
- NYLON SHOULDER CASE FOR GUITAR ¥9,000
- NYLON SHOULDER CASE FOR BASS ¥10,000
- NYLON SHOULDER CASE FOR JAGUAR & JAZZMASTER ¥9,000
- NYLON SHOULDER CASE FOR SHORT BASS ¥10,000
- SOFT CASE FOR GUITAR ¥8,500
- SOFT CASE FOR BASS ¥9,500

持つてる道具がその人のグッドティリストを物語るなら、その道具をどこに、どう収めているかも注目したい。ケースの話なんだけど、フェンダーの場合その形、素材の多彩さはギター本体に負けず劣らず豊富で、選ぶ時に悩まされる。一番ベーシックでヘヴィデューティなのがハードタイプ。ワイヤードを使ったものと塗装があるが、機材と一緒にロードに出る人はこれに限る。スタジオやちょっとしたライブに参加するような時はセミハード、ショルダータイプが便利だ。ギターと違つて何度も買い換えるような物ではないけれど、ロードとスタジオ用に構造の異なるケースを2つぐらい持つているとギターも嬉しい。

C  
A  
S  
E

フェンダーではピックアップの呼名を例えればストラトキャスターならば、ネット側からリズム／ミドル／リードと呼んでいる。今や日本的な呼び方をするならフロント／センター／リアまたは第1／第2／第3となるが、あえてアメリカ流にUSAのフェンダー・エンジニア達が昔から使ってる呼名を通して。(スペック表参照) そもそもその由来はコードワークなどのリード部分をリアが受け持つところから来た。

*Fender*  
FENDER JAPAN

LM楽器専門店  
**サウンド・ステップ。**  
松山市大街道3丁目5-1  
ロープウェイ街 41-6886

フェンダー・ジャパン株式会社 〒101 東京都千代田区神田錦町3-4-2 神田東洋ビル12F TEL.03-254-3642

